

令和7年度 第2回 広沢小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年6月16日（月）13時30分から15時30分
- 2 開催場所 広沢小学校1階 開放教室
- 3 出席委員 杉浦 友治 山田 谷一 川上 玲子
橋本 憲幸 宮本 慶子 平野 圭吾
橋本かずよ 佐々木 知成 加藤 いずみ
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 西部協働センター 横市 佳音
- 6 学校コーディネーター 矢野 貴恵
- 7 学校 浮田 佳昭（校長）、鈴木 俊彰（教頭）、
中村 隆太郎（主幹教諭）、天野 毅稔（CS 担当教職員）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 主幹教諭 中村 隆太郎
- 10 議長の選出について

司会の鈴木より、議長の選出について委員に意見を求めたところ、杉浦会長から加藤委員を議長に推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- (1) 地域人材によるクラブ活動の取組について
- (2) 学校支援活動の具体策について
- (3) 学校評価アンケートの項目の検討について

12 会議記録

司会の鈴木から、委員総数9人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 地域人材によるクラブ活動の取組について

- ・ 議長の加藤委員より、クラブを見学しての感想について投げかけがあった。
- 子供たちの笑顔が多く、楽しい雰囲気であった。バルーンは楽しそうであった。生け花クラブは準備が大変そうであった。10分くらいはかかっているのではないかと。マジックは講師の人にとっても前で披露する場があってよかったのではないかと。将棋は真剣に取り組んでいた。（山田委員）
- ・ 教頭より、国立政策研究所の資料から、クラブ活動の位置づけについて説明があった。
- 生け花クラブでは、普段使わないはさみに子供たちは四苦八苦していたが、それもとてつよい経験になっているのではないかと。大人の見守りの中で経験ができるのはとてもよいのではないかと。（加藤委員）
- みんな楽しそうであった。他学年との関わりも含めてよい経験になっている。（橋本かずよ委員）
- 回数的には年に3回くらいだが、回数は増やしていけないのか。（平野委員）
- 昨年度も3回であったが、1回目の活動の前に顔合わせや説明を行っており、1回目の活動が充実して行えるようにした。昨年よりも実質活動時間が増えた。（教頭）
- 地域の人たちとのつながりという部分を見たときに、クラブの中でより地域の人たちと個別にかかわれる時間が大切になるのではないかと。先生の配置についてもあれだけの人数が必要なのか。（地域の方たちと子供だけの活動のできる部分があるのではないかと）（平野委員）
- 子供たちに気負いがな。授業の真剣さもすばらしいが、リラックスしな

が楽しく活動に取り組んでいる。子供たちがやりたくてやっているのが感じられる。こういう時間の大切さを感じる。クラブに時間を割いて来てくださる講師の方たちにありがたいと感じる。(宮本委員)

(2) 学校支援活動の具体策について

- ・議長の加藤委員より、更なる学校支援の形がないか投げかけられた。
- 家庭科室で調理を行うクラブもできるのではないか。そのことで母親等の参加もあるのではないか。(川上委員)
- クラブの数は増やしていく方向か。希望通りのクラブに所属できているのか。一つのクラブの人数が多いのではないか。(平野委員)
- 西部協同センターで実施されている講座で人気なものはあるのか。(加藤議長)
- 点字教室や泥団子づくりは人気がある。そういったところの講師の紹介も可能であると思う。(西部協同センター)
- 幼稚園で人気な活動はあるか。(加藤議長)
- 生け花は特に男の子に人気。人と出会う、ものと出会う、ことと出会う場がクラブ活動であると思う。1時間の時間が有用な時間となるために、外部の講師の人たちと子供たちをつなぐのが担当の教師の仕事である。子供たちの意気込みを生かして目いっぱいやらせてあげるためには、担当講師と担当教師の事前の連絡、段取りづくりが大切になる。(橋本憲幸委員)
- クラブを通して体験ができ、興味をもつきっかけになるとよい。普段できないものほど、貴重な体験になるのでは。「茶道」や「フラワーアレンジ」などもよいのではないか。(平野委員)
- 先生でも親でもない、人生経験豊かな人たちが楽しいことを見せてくれる。授業でない内容でそのような交流ができて、ほのぼのしていてよいと感じた。(宮本委員)

(3) 学校評価アンケートの項目の検討について

- ・議長の指示により、主幹教諭より、別紙資料に基づき「アンケート項目」について説明があり、委員からは、以下の発言があった。
- 児童①あいさつの評価を学年ごとの段階をつけた文言はよいと思う。児童①⑦「進んで」地域の方にはあいさつには段階をつけないでよい。(矢野CD)
- 保護者⑨「粘り強く」の判断が難しい。(加藤委員)
- 広沢っ子宣言ができた理由として、10年前にできた当時にはその背景があった。地域の人たちにも子供たちの現状と学校と目指している姿を示し、共有することで、より地域の支えの中で子供たちを育てていけると思う。(佐々木委員)
- 人としての心の様子と、学習への取組が並んで項目が示されているので、宣言1・2・5と宣言3・4の分け方が難しい。また、3年生から6年生の項目がほぼ同じであるがよいのか。(宮本委員)
- 「夢」という言葉がどの学年に入っているが、低学年から「夢」をもたせるための取組をしているのか。(平野委員)
- ・経年変化を見るためにも、グランドデザインに沿って考えられた学校評価アンケート項目については協議の結果、全員意義なくこれを承認した。

13 その他報告事項等

- 矢野CDから読み聞かせ、図書室ボランティアの活動が始まるとの連絡があった。また、交通安全リーダーと語る会について参加を募り、内容の連絡をした旨連絡があった。
- 教頭より以下の報告及び連絡があった。
 - ・次回の熟議内容の確認

司会から、次回会議は、令和7年10月23日（木）13：00～15：00
開放教室で開催する旨の報告があった。